

第12回鳥栖市総合教育会議 議事録

会 議 名	第12回鳥栖市総合教育会議
日 時	令和2年8月12日(水) 開会 午後1時10分 閉会 午後2時51分
会 場	市役所3階第1委員会室
公 開 ・ 非 公 開	公開
出 席 者	構成員：橋本市長、天野教育長、古澤教育委員、吉原教育委員、 戸田教育委員、副田教育委員 事務局：白水教育次長、青木教育総務課長、眞子教育総務課総務係長 説明員：中島学校教育課長、 古賀学校教育課参事兼課長補佐兼指導主事、 日吉学校教育課参事兼教育相談係長兼指導主事、 松隈生涯学習課長兼図書館長、 八尋生涯学習課長補佐兼生涯学習推進係長
傍 聴	0人
協 議 事 項	◆新型コロナウイルス第2波に向けた取り組みについて ◆学童保育(なかよし会)について
発 言 者	内 容
青木教育総務課長	ただいまより、第12回鳥栖市総合教育会議を始めさせていただきます。本日、ご議論いただく事項は、一つ目が、新型コロナウイルス第2波に向けた取り組みについて、二つ目が、学童保育なかよし会についてでございます。進行に当たりましては、橋本市長にお願いすることになりますので、橋本市長よろしくお願いいたします。
橋本市長	皆さんこんにちは。新型コロナで大変な状況となっております。そのような中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。本日は、新型コロナの第2波に向けた取り組みについてということと、学童保育についてご議論いただきます。 新型コロナについては、第2波といっても、世界的にはまだまだ第1波の初めだそうでございますので、いつごろがピークなのかよく分からない。 また、サガン鳥栖の監督が陽性になって、今選手も1時ぐらいの発表で9人陽性疑いということで、再検査をされていて、クラスターの恐れもあるということで、その結果次第では、今日の試合はキャンセルということのようでございます。かなり厳しい状況のところまで来ております。 学校のほうでも、長期化した臨時休業の学習の遅れを挽回すべく、先生方、本当に一生懸命対応していただいております。

	<p>新型コロナ対応について、それぞれの知見をお持ちだと思いますので、また、いいアイデアをいただけたらというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>まず概況から、説明をいただきたいと思っております。それでは、よろしくお願いいたします。</p>
古賀学校教育課参事 日吉学校教育課参事	(資料に基づき説明)
中島学校教育課長	<p>失礼いたします。付け加えまして、私のほうから説明いたします。今回の新型コロナウイルス感染症対策に伴います児童生徒の学びの保障といたしまして、人的体制の整備も行っているところでございます。</p> <p>一つは、教員の加配措置でございます。今回、学校再開に当たりまして、3密を避けるための環境づくりなど、感染症対策の強化を図るため、小中学校の最終学年の学級を分けて指導を行う、少人数編制で指導するために必要な加配教員を、鳥栖北小学校と田代中学校の2校に配置することとしております。これにつきましては、今その手続を進めている段階で、8月17日から学校に入っていく予定としているところでございます。佐賀県全体では、4名の加配が行われたということで聞いております。</p> <p>もう一つにつきましては、スクール・サポート・スタッフの配置でございます。これは教員の業務支援を図り、教員が一層児童生徒への指導とか、教材研究に注力できる体制を整備するため、教員の専門性を必要としない、消毒などの感染対策、学習プリント等の印刷、また授業準備の補助などに従事するスクール・サポート・スタッフを、市立全小中学校に各1名配置する予定でございます。これにつきましても、先週いっぱいを募集期間としまして、市のホームページとハローワークで募集を行いまして、現在全部で15名の応募がっており、来週の月曜日に書類選考及び面接という形で選考していく予定にしているところでございます。2学期の8月25日から各学校に入っていくように予定をしているところでございます。</p> <p>このように、人的体制を整備することで、感染症対策を徹底しながら、学びの保障を図り、学習の充実を図っていきたいと考えております。ご報告をさせていただきます。</p>
橋本市長	<p>はい、ありがとうございました。補足はよろしいですか。今まで説明申し上げたことについて、ご質問等ございましたら承りたいと思います。あるいは、取り組みについて、ご意見等ございましたら頂戴したいと思います。</p>

	<p>スクール・サポート・スタッフは、結構簡単な仕事のように、責任重大でありまして、消毒箇所がすごく数あるということと、もしそこで何か発生したとき、その責任を問われると、なかなか厳しいものがあるということです。それについては、どういう考え方なのでしょうか。</p>
天野教育長	<p>はい、もう、言われるとおりで、非常に凡事徹底で確実にやっていかななくてはならないところですので、そういうところでもし、感染したとかクラスターが出たということになると、大変なことになるのですが。</p> <p>実は、この度、文科省が作成している、学校の新しい生活様式に対するマニュアルが改訂されております。その中で、ドアノブ、手すり、スイッチなどは、1日1回消毒を行えばよいということで緩和されています。また、消毒についても、通常清掃の一環として、新型コロナウイルス対策に効果がある家庭用洗剤等を用いて、児童生徒が行っても差し支えないということです。</p> <p>今まで、いろいろと随分徹底していましたが、もちろんそれはそうすべきだったのかもしれないですけども、しっかり状況を見て、文科省のほうで、消毒については緩和されておりますので、それは少し大丈夫なのかなという気もしております。</p>
橋本市長	<p>ありがとうございます。あと学校そのものではないんですけど、皆さん、手洗い習慣やマスクの習慣が浸透してきているということもあって、おかげさまで、インフルエンザもノロウイルスも、非常に発生が少なくなっております。大変いい傾向かなと思います。</p> <p>ただ、今危惧しているのは親子間での感染が出始めているということです。孫から祖父母への感染も鳥栖市内でも起こっておりますので、かなり身近なところでの感染が広がってきている感じがしております。</p> <p>あともう一つ、これだけ数が出てきておりますので、実は検査機関がもう手一杯でございまして、濃厚接触者の定義をかなり厳密にされていて、検査をしてもらえないという状況があります。</p> <p>ですから、特に子どもたちの場合は、割に症状が出にくい病気でもあるようございまして、無症状感染者であっても、濃厚接触者がすごく限定されていて、検査されない恐れがあるので、そこからの感染が広がるというのも、ちょっと心配するところでもあります。ただこれは防ぎようがないので、ここでご指摘あるように、手洗いの励行とか、距離を保つとか、そういう基本的なところをより徹底していかないと、なかなかその蔓延というのは防げないのかなあという気がしてございまして、ここはもう、本当に先生方、大変ご苦</p>

	<p>         労ではあると思いますけれども、よろしくお願ひしたいと思ひます。          あと、7月の臨時議会で通していただいたのは、これから秋口にかけてインフルエンザと新型コロナウイルスの両方が流行ると、非常に面倒なことになるだろうということで、インフルエンザの予防接種について、生後6カ月から18歳まで支援の枠を広げて、1回当たり2,000円の支援をして、まずはインフルエンザだけでも抑えるために、できるだけ予防接種をしていただくような取り組みをしていこうということで対応しております。          ここは、学校等においても、予防接種の啓発をしていただいて、インフルエンザだけでも抑えておいて、発熱したら新型コロナの可能性が高いというのが、すぐに分かるようにできればということで、その対応も併せてお願ひしたいところでございます。          あれやこれや申し上げましたが、何かご質問ご意見ございましたらお願ひします。       </p>
<p>天野教育長</p>	<p>         はい。非常に大事なことは、学びをとめないってというようなことだというふうに思っております。そのために、いろいろな手だてをとるんですけども、その一つとして、臨時休業の基準というのが、2ページの(1)に、①と②という形でまとめております。          以前は、複数の学校で感染者が出たら、鳥栖市は全て臨時休業すると、濃厚接触者もそういった対応でしたけれども、これも市長さんのほうからも、副市長さんからもご指導があつて、それをする、ずっと休業しないといけないというふうなことで、今度改定をして①、②の形で、該当校のみの臨時休業にすると、そして再開については、保健福祉事務所と協議して判断するということになりました。          実は、先週の金曜日に、県の教育委員会のほうから、県立高校への指示がありまして、義務制においても同様ということだったんですけども、児童生徒や教職員が濃厚接触者に特定された場合、すぐその日に臨時休業にしなくてもよいというような判断がされています。これについては、まだ教育委員会内で協議もしてないんですけども。          実は、先週、ある小学校で、濃厚接触者に特定されたということで、すぐに、明日は臨時休業にするということで、保護者にも全部ラインのメールで送ったんですが、数時間後、陰性だということが分かりましたので、すぐにそれを取りやめるという対応を取ったわけです。いろいろ給食でご苦勞をかけたんですけど、そういったことをなくすためにも、濃厚接触者に特定されても、すぐに対応するんじゃないくて、その対応する子どもとか親とかも含めた上で、保健福祉事務所とも相談しながら、出席停止の措置をするということで       </p>

	<p>す。その前の週、ほかの学校での事例ですが、父親の同僚の方が陽性で、父親が濃厚接触者に特定されたとき、親の判断で、すぐにお子さんを学校に出席させなかったんです。親御さんが、そういった早い判断をされると、非常に学校も助かるんですけども。</p> <p>県の教育委員会のほうから、児童生徒や教職員が濃厚接触者として特定された場合、すぐに臨時休業しなくてもよいという判断がされたので、学びをとめないっていうふうなことも含めて、ある程度柔軟に対応できるんじゃないかなっていうふうに思っています。ただ、これについては、まだ決定したこともありませんし、学校に指示ができていない状況でもありません。</p>
橋本市長	<p>戸田先生は、ご自身が先生でもいらっしゃいますので、学びをとめないというところで、今回いい方法とか、大学とは若干違うのかもしれないかもしれませんが、何かございませんでしょうか。</p>
戸田教育委員	<p>はい。いいアイデアは、全くないんですけども、今回、私の大学でも、かなりバタバタと新型コロナ対応に追われたんですよ。できることしかできないんで、できることをやるしかなかったんですが。まさに、ここに書いていただいているとおりの、今回いろいろと鳥栖市の小中学生に対してしていただいたように、いろいろな手だてをその場にに応じてするしかないのかなと思います。まさに、さっき言っていただいた学びをとめないためには何ができるのか、一律同じことができなかつたとしても、できることをしていくっていうことが一つと、もう一つは、さらに、この先どんなことができるのかっていうのをこれ以降準備していく、その二つなのかなというふうに思います。</p>
橋本市長	<p>どうぞ。</p>
副田教育委員	<p>専門家ではないので、新型コロナ対策についてということは発言できないんですが、もうこれから何年か先を予測して、本当にウィズコロナで過ごしていかないといけないんだなっていうようなものは感じております。その際に、やはりいろいろなところから耳に入ってくるように、コロナいじめ、例えば、その子が陰性であったとしても、うわさに歯どめがきかなくなりますので、家庭の中から新型コロナの感染の方が出たときの、心のケアといいますか、そういったものが大事になってくるのかなと思います。子どもたちに、道徳の勉強の中で、いろいろな場面から、それをどのように伝えていくか、もう既にそのことが必要になっているのかなというふうには思っております。以上です。</p>
古澤教育委員	<p>特にはないですけど、私も同じような発言をしようかなと思っていました。子どもたちは敏感なので、そういったことを悪気なく言</p>

	<p>ったりすることがよくあるわけですね。言われたほうは、とてもじゃないけれども、それが引き金で不登校に結びついてしまうということが多々あります。そこら辺はやはり、学校側からしっかりと、発信していく必要があるだろうと思っています。</p> <p>それと、教育長のご報告の中でも、今までも何回もその都度連絡いただいてましたけど、ある市内の保護者の方も、これだけテレビで取り上げられているので、認識は随分高まってきているかなと、コロナ注意ということですね。ひょっとしたら、旦那が濃厚接触者だから、自分たちもひょっとしたら、子どもも学校にやらないほうがいいのかもしいかなという、すばらしい配慮をされて事なきを得たということがあります。やはり、相互からそういった取り組みも、PRしていく機会を見つけて、PTAの方とか、いろんな場面で会合される場面もあるでしょうから、発信していくことが大事なかなというふうに思ってます。以上です。</p>
橋本市長	はい。
吉原教育委員	<p>今までの話を聞いていた中で、この鳥栖市の臨時休業の基準ということが、また新たに変わったということで、こういうのは徹底して、市民の皆さん、当然この子どもが通う家庭には、もっと広く周知しないと意味がないと思います。テレビの情報も結構バラバラで、それぞれ認識が変わるかと思うんですね。せつかくこういうふうには、臨時休業の基準ということで、学校として、教育委員会として、どういうふうに動きますよという基準があるので、このような情報は、早目に周知徹底して、皆さんに同じような対応してもらおうということで、学びをとめないということに、実に必要なことじゃないだろうかと思いました。以上です。</p>
橋本市長	<p>ありがとうございます。ちょっとご質問なんですけど、保護者の皆さんには、ご自身がとか家族がそういうときにはどういった対応しているのは、きちんとお知らせはいつてるんでしょうか。</p>
古賀学校教育課参事	<p>はい、保護者への周知というところで、まず、ご自身と保護者のご自身に陽性反応が出た場合、それから、濃厚接触者に特定された場合、これはまず、学校に連絡をしてくださいというふうに周知をしております。また、最近ではありますけれども、学校閉庁日になっておりますことから、平日につきましては、まず教育委員会が聞いていますので、そちらのほうに連絡をというふうにしていきます。また、コロナ禍ということもありますので、土日・祝日につきましても、こちらのほうに連絡いただければ、誰かしらに連絡がつくようにしておりますので、必ず土日・祝日でも連絡くださいという周知をしております。</p>

天野教育長	すみません。基準の周知徹底というのはプリントで行っていますか。そこをもう少しお願いします。
古賀学校教育課参事	はい、休業の基準の徹底というところにつきましては、各学校長に、まず伝えております。こういう基準に変わりましたというふうなことです。臨時休業の基準については、保護者までは伝えていなかったかと思います。各学校で必要に応じて、学校からのお便り等で周知するというような形をとっていたかと思います。以上です。
橋本市長	<p>これは本当に、新型コロナそのものがどういうものか分かっていなかったということもあって、最初、特に教育長とお話をしていたのは、鳥栖が、大体毎日3万人が福岡県と行き来をしている街ですから、大体、新型コロナの感染者が県内で出るんだったら、鳥栖か唐津が第1号よねっていう話はしていたんですけど、その意味では、まだ数少ないので、皆さんしっかり守っていただいているんだなという思いがございします。ただ、だんだんちょっと今緩くなってきておりますので、特に夏休み期間の過ごし方、これで2学期がきちんと始められるかが決まってくるので、ここはなかなか手が届かないところですので、ちょっと不安なところではございします。</p> <p>後段のところ、ICTを活用した事業等の説明を申し上げましたけれども、今、文科省のほうで、GIGAスクール構想が打ち出されておまして、ICTの環境を利用し、学びの一つのツールとして使っていこうということです。こちら辺について、ご意見いただければありがたいなと思っておりますけれども、いかがでございしましょうか。</p>
天野教育長	<p>今回の定例教育委員会で、9月補正ということでご承認いただいたんですが、GIGAスクール構想のほうも、9月の定例市議会にのせるということで、また、多くの援助をいただいて財政面でもたくさん負担をいただくということになります。</p> <p>教育現場で、一番危惧してたのは、全ての児童生徒に端末を与えるということで、今子どもたちが6,800人ぐらいおりますけど、全部に一気に与えてしまいますと、対応する先生方が、うまく対応できなくて、パニックになってしまうんじゃないかなというふうなことです。それで今回は、またご配慮あって、7月の補正予算で、まずは、小6と中3にタブレットということで対応していただくということになったんですけれども、今の方向性からいくと、これが上手くいっても、やはり機種が入るのが10月で、運用できるのが10月過ぎで、11月近くなるんじゃないかとなると、本当にできるのかなという心配もしてきています。</p> <p>さっき言ったように、なるべくいろんな機会に、いろんなこうい</p>

	<p>う手だてをとる上では、それをやっていき、そしてG I G Aスクール構想の部分については、やらなきゃいけないというふうに思っています。市長さんの方は非常にICTにお詳しいんですけども、これからの情報教育を考えた場合は、G I G Aスクール構想で、1人に1台を与えるっていうのは、これはやはり、一番大切なことじゃないかなあというふうにも思っています。</p> <p>実際にどれぐらいできるのかということ、先程、日吉参事のほうから話をしていますけれども、非常に難しい部分もあって、先に上峰町とかがやってる部分もあって、果たして、それと同じレベルまで、いつになったらできるだろうかという心配も非常にしています。今、マニュアルを作るとか、プロジェクトを作ってやっていますけど、それが果たしてどれぐらい効果を上げるのかということで、非常に心配をしている面もあります。こういうことがなかったら、多分これ以上に遅れたらというところもあって、そういう形で1日も早くやっていきたい、G I G Aスクール構想も含めてですね。</p> <p>ただ、やっていく中で、やるからには、1人1台端末でやるんですけど、テレビでやってるような、オンラインでの学習を双方向でできるようになるのは、なかなか難しいので、一応今、日吉参事と話しているのは、まず朝の健康チェックをするとか、宿題プリントの確認をしようとか、ちょっとレベル的には低いんですが、そういったことを一つずつやりながら、そして将来的にG I G Aスクール構想の上に乗っていきたいということですね。そのためにも、一時も早くやらなくちゃいけない提案ですけども、そういう状況で考えていきたいというふうに思っています。</p> <p>様々な手だてを準備してやる必要がありますので、もちろん僕はアナログでプリントをやって、プリントを集めて回って、そして先生が一言書いて渡してとか、そういったところも大事と思うんですよ。リモートであるのが全てではないというふうに思いますけど、その一つとしてはやっていかなければならないと思っています。</p> <p>日吉参事、何か付け加えがあったらお願いします。</p>
日吉学校教育課参事	<p>はい、もうまさに、今説明にございましたように、職員のスキルを追いつかせるための手だてをあれこれ考えて、プロジェクトチームの中から出てきた案の一つがマニュアル作りでした。</p> <p>マニュアル作りも、本当に苦手な人が見て分かるようなものを作ってくださいということですね。今やっていただいているところなのですが、今年度については、遠隔でリモート会議を使ってやることに特化して取りかかっています。これは、やはりどうしても、根本的な授業づくりのことを切り離してはできないものです。それは</p>

	<p>もう、GIGAスクール構想のほうに話はシフトすることになるわけなんですけれども、それも併せて、今年度できる限りやっていきたい。こちらについては、やはり校内の研究部がございますので、この辺の力を借りていくことになるかなというふうに考えているところです。</p> <p>今、それぞれ進めておりますが、昨年の文科省から出されました教育の情報化に関する手引をもとに、試行錯誤しているところでございます。これによりますと、ICTを活用した学習場面というのを、一斉学習、それから個別学習、あと共同学習、この三つの場面に分けて整理がなされております。まずやれるところからやる、今現在も一斉学習については、電子黒板を使った活用がなされていて、これは令和元年度の調査結果によると、鳥栖市内でも97%の先生方が、これを活用した授業ができる状況にあります。</p> <p>でも、これに加えて、その端末を使って個別学習をより充実させる、あるいは共同学習を充実させるということになると思います。ここについては、やはり授業力そのものを、ある程度ある先生方を中心に広げていっていただく話になってくるかなと思います。ですので、ちょっと時間はかかるかもしれませんが、まずは、平常時においては日常使いをやることからどんどんやっていって、そして、やがては今度効果的な活用について考えていくってことです。先生たちが、もう嫌だ、使いたくないというようなことにならないように持っていったらなと考えているところです。以上です。</p>
橋本市長	はい、ありがとうございます。ネット授業を実践された戸田先生いかがですか。
戸田教育委員	<p>はい、うちの大学が2週間スタートを遅らせて、4月20日頃から、ついこの間まで15週間、前期完全オンラインでやりました。準備の期間はほとんどなかったんですけども、やってみた感想としては、やっぱり対面でないとできないことはいっぱいあるなっていうのはよく分かりました。1人で、特に、少人数の授業、演習形式の授業は、顔を見ながらテレビ会議みたいにしてできるんですけども、講義形式については、顔を見ずに一方的にしゃべるんで、何かやはり反応とか双方向性は全くない、それをどうやってカバーしようかっていうのを苦労しながらしました。</p> <p>ただ、あくまで僕の授業ですけども、オンラインででしかできなかったこともあって、例えば100人の授業で、全員からコメントをもらったりするのは、普通の授業ではできないことですし、毎回のレポートみたいなものも、手で採点してたらできなかったのが、オンラインで提出するのでできた。それは、僕の授業限定ですけれ</p>

	<p>ども。恐らく、やりながらいい面もあると思います。うまく工夫をしながら。それともう一つは、ゲストスピーカーを東京から呼ぶのとかも簡単だったんですね。ですので、先ほど、まさにやりながらと言われてましたけれども、こういった状況でないと、大学もそうですし、小中学校もこんな大幅な同意を得ることが絶対にできなかったことなんで、まずは、非常時にどうするのかっていうのを考えた上で、平時に関しては使いながら慣れていって、いい方法を見つけていただければなと思います。</p> <p>それを思うのが、電子黒板の利用が導入されてから、先生方が、年々うまく活用されているように感じるんですね。それって、先生方がいろいろ試行錯誤されて、工夫されて、うまく使われるようになってきているのだと思います。あるものをうまく活かされるのも、現場の先生方のお力だと思うので、これも、道具立てを入れることによって、現場の先生方は、新しい何かをうまくされるんじゃないかと。それこそ、その負担は、最初は大きいかもしれませんが、うまく使えば、今の働き方改革にもつながるようなこともできると思います。ぜひ、活かしていただきたいなど、我々が想像しないようないい方法で、全国の先生方が工夫されると思うので、活かしていただきたいなど、希望します。以上です。</p>
橋本市長	<p>ありがとうございます。経験に基づいた、優しいご指摘ありがとうございます。</p>
天野教育長	<p>本当に、今言われたように電子黒板をスタートしたときは果たしてできるかと思ってたんですけど、今97%、本当に、もうほとんど使うんですね。そういった意味で、そういった場面になって活用すれば、うまくできるということです。私も今回こういう機会になったので、リモートあたりがね、将来的には大きな財産といえますか宝物になるんじゃないかなっていう気もしております。</p> <p>働き方改革ということで出たんですけども、その辺が、ちょっと我々としても、最初は非常に苦労するだろうなということで、先ほども日吉参事とも話をしたんですけども、学校別に、例えば、弥生が丘小では、算数を中心にやって共有するとか、若葉小では、国語で研究をやっていますから、国語のまとめをリモートで他の学校の先生方に流してあげるとか、田代中校区はリモートでつないで、会議をできるような体制を組み始めていますので、そういったことを上手にできないかなというところもあります。うちは小中一貫をやっていますので、取組を共有していけるのではないかと考えています。それともう一つは、リモートでのハイブリット学習とか言いますよね。対面と両方、常時に使うということです。だから、リ</p>

	<p>モートオンリーではなくて、そう言ったように対面も使い、それから、分割授業ですかね。そういったことをもっと積極的に、例えば田代中の1年生は多いんですよ、1クラス40人近くいますから教室の中で、この前見て回ったら、もうどっさりですよ、1人で教師をしてますけど。教室の問題もあるんですけども、授業においては、ちょっとリモート型に変えて、二つぐらいの教室に分けてリモートを通してやるとか、そういった形のものをやるとか、いろいろこう想像できて工夫できればね、何か新しい財産で新しい形ができていくんじゃないかなというふうなことを期待しています。以上です。</p>
橋本市長	吉原さんいかがですか。
吉原教育委員	<p>タブレット導入、あくまでもタブレットは道具であって、先ほどから話があるように、もうツールとして、今から当然必要なものでもあります、当然タブレットは先生の代わりにはなりませんので、この道具として、将来性があるものとして、導入をしていただいて、いろいろ試行錯誤しながら、学校の先生たちは大変かと思いますが使っていただけたらと思っております。</p>
天野教育長	<p>ちょっと視点を変えて、今度25日スタートで、非常に心配しているのが、子どもたちの心のケアの部分なんですよね。先ほどちょっと話が出たんですけども、鳥栖市内でも、コロナ絡みのいじめがありました。そういうことで、心の面から保護者の心の安定の部分もあるんですけども、7月になってから大分落ち着いてきましたが、最初スタートの5月、6月は、特にいろんなことが起こりました。</p> <p>もうご報告をしたんですけども、親の虐待というか、暴力事件も起きましたし、学校から飛び出すことはなかったんですけども、家から飛び出すとか、家を出て学校に着いていないというのが、1週間に続けて3件ぐらいありました。保護者が安定してないんですよ。もうイライラしてるということもあってですね。</p> <p>今度スタートを切るんですけども、やはり子どもたちの心のケアの部分をしっかり考えていく、スクールカウンセラーであるとか、ソーシャルワーカーとかおられますけれども、そういった方たちと連携を取りながら、地域も巻き込みながら、これはやっていかないと、最初のスタートが上手くいかないかなと非常にそこは心配しています。だからうちとしても、そういった意味で、校長会あたりも含めた上で、しっかりその辺をみて、やっていかなくちゃいけないんじゃないかなあというふうに思っています。子どもたちの変化といますかね、そういったところをしっかりと見ていくということで、そういったところも、もちろん授業の学習の保障も大事なんですけ</p>

	<p>ども、心の面の、それから教職員も含めて、メンタル面が心配な面もあってということで、大きく休職とるというのはなかったんですけども、教職員学校関係者が、濃厚接触者になったとか、それから、もしも感染者になったというときの、その後の対応フォローもしっかりやらなくちゃいけないんじゃないかなというふうに思っています。以上です。</p>
橋本市長	<p>いかがですか、古澤さん。</p>
古澤教育委員	<p>特にはないんですが、ICTについては、先ほど先生からも説明がありました。不得手な方が、しっかり分かりやすいようなものを作ること、マニュアルを作るというのは、非常に大事なことだろうと思っています。デジタル人間ばかりじゃなくて、アナログな人もまだまだいるわけですから、そこら辺をカバーしてあげるといのは大事だろうと思っておりますので、まずは、そういう方たちが意見を言いやすいような環境を作っておく必要もあるだろうと。そうでないと、そういったことがあるからということで、今教育長がおっしゃいましたように、それがメンタル面につながったりしてしまうところまでいってはいけませんので、私もどちらかというアナログ派なので、ひょっとしたらついていけないかもしれないというふうな気がしているので、非常に大事なところを押さえて取り組もうとしてあるなというふうに思ってお聞きさせていただきました。以上です。</p>
副田教育委員	<p>私もアナログ人間でして、いまだにそのパソコンの操作もできない、まだワープロで文書作成しているような段階ですので、本当に全く分かっていないんですけども、先ほどの心のケアということに関しまして、よく心に問題を抱えている子、いじめを受けていたりする、いろいろ家庭的な悩みがある子が、足を運ぶところが図書室だと言われてます。もちろん保健室にもお腹が痛くなったりして行くんですけども、よく司書の先生方から、仲間に入れない子がひとりぼっちで図書室に来ていたりとか、あの子はとってもやさしいねって言われている子が図書室でいじめをしていたりとか、だから、大人に見せない部分をよく図書室で目にするところがある、大人が目がないところっていう、そんな話を多々聞いたことがあるんですね。そうしますと、これからいろいろ、コロナ禍の中で、心の悩み、そして、家庭の悩みを抱えた子が、特に小学生が多いようです、中学生よりも。図書室に足を運んだときに、そこにお友達との関係がうまくいかなかったときには、こんな本がおすすめだとか、とても心が強くなる本とか、何かそういうふうな感じで図書室から発信していけたらなというふうに、今ふと思いました。はい。</p>

	<p>話がまとまりませんが、以上です。</p>
<p>橋本市長</p>	<p>ありがとうございます。それぞれの見地から、ご指摘いただいてありがとうございます。</p> <p>私は、ソフトウェアを作っていた立場から申し上げますと、コンピューターというのは、大変偏った意見なのかもしれませんが、それを使う人間をばかに変えていくという思いが常にございます。例えば、よく部課長の皆様にも申し上げるんですけど、実は、一生懸命皆さん仕事をしていると思っているんですけど、オペレーターになってしまっているんじゃないですかと。例えば、いろいろな法律とかができて、あるいは改編されて、それをシステムにソフトウェアに修正して使っていくんですけど、実はコンピューターの入力をしているとき、ほとんど何も考えていないんですね。このロジックが、どういう背景で生まれてきたのかとか。</p> <p>だから、一時期、この10年ぐらい前なんですけど、税金の過誤があって、それで、全ての市民の皆さんの税金の徴収状況を調べたところ、もらっていない方、もらい過ぎていた方を合わせて五、六千万出てきたんですよ。それで、ほとんどのパターンが入力ミスなんです。手計算だと、この環境でこういう数字が出てくるのは大変おかしいと気付くんですけど。例えば、1のところを10入れたとか、100入れたとか、そういうことだけでやっているの分かっていないんですね。要するに、どうしてこの法律ができたのか、どうしてこういう改正がなされたのかという理由が分かっていると、そこら辺で気付くんですけど。そういうことを考えずに、入れることだけに注力をしてしまうということです。</p> <p>ですから、こういうタブレットとかも、その使い方、吉原さんは道具だと、たがが道具なんじゃないかという、まさにそういう割り切り方をして、じゃあ何を見つけないんだとか、何を探したいんだ、どういうふうにしたいんだという思いを持って使っていないといけない。そこで、出てきた情報を見ることだけで学んでしまったと錯覚をしてしまう、これが一番怖いわけで、その意味では、道具と割り切って、その道具の限界も含めて、どういう使い方で情報収集ができるんだとか、そういう割り切りをしていただく必要があるのかなと。</p> <p>いつも申し上げますけど、採用試験の論文の中身を拝見していると、誤字脱字なども結構あって。</p> <p>やはり、発達段階に応じた読み書き、そろばん、必ず手で字を書く、棒の一本、点の1個に意味があるということから始まってですね。だから、実際に自然に出て、物に触れるという事とか、その発</p>

達段階に合わせて、経験すべきことはきちんと経験をさせていただいた上で、もっと世界を広げるために、こういう道具を使っていたと割り切り、それでネットに入ったときに、本当に種々雑多な情報が溢れていますので、そこから、判断できる知識をどう身に付けさせるか、適切な情報を拾い上げるとか、見つける判断、仕方をどう身に付けさせるかということに、心を砕いていただくと、ありがたいなあと思っております。

ですから多分、デジタルネイティブの子どもたちというのは、我々がどうこうをするよりも先に、肌感覚で触って、自分たちでどんどん習熟はしていきますので、後はそこに、情報の選び方とか、そこら辺の判断をどうすべきかというふうなことで、やっていただくとありがたいなあと思っております。本当に昔の知識で、化石みたいなものになるのかもしれませんが、ずっとそうやって見えます。

今、ワープロでという話がありましたが、やはり、例えば日本語だと、以前申し上げたと思いますけど、漢字仮名交じり文を書いている、読んだときってというのは、脳がすごく動いているんですが、ワープロで打ってるときは、指を動かす部分しか脳みそは動いてないんですよ。要するに、言語の変換をコンピューターがやっているんで、その作業を全く脳みそはやってない。コンピューターは、それを使う人間をばかにするって言ったのは、そのところでありまして、脳みそを使っていないんです。実は、考える部分は全部コンピューターがやっているんで、その限界とかというのを思い知りながらやったほうが、人間の手足もそうですけど、使わなければ退化しますので、脳みそも使わないと退化してきます。いかに、脳みそを使わせるかという発想で組み立てていただくと、いい使い方になるのかなあと思っております。ぜひ、あれやこれや投げかけるだけで、大変申し訳ないんですけど、使い方を見つけていただくといいなあと思っております。

恐らく、だから戸田先生がおっしゃったように、これをうまく使うことで、今まではこれしか教えてなかったのが、すごい世界が広がっていくと思うんですね。そういう使い方をしていただくと、導入意義があるのかなあ。ここでお金の話を持ち出して恐縮ですが、大変な投資でございます。ぜひ無駄にしないように使っていただきたいなと思ったりしております。すみません、しょうもない年寄の戯言を。

あとは、新型コロナについてちょっと立ち戻って申し上げますと、特に、初期のころに陽性になった方のご自宅に白い服を着て消毒に

	<p>行ったりしている姿を見た人たちが、お家に石を投げたとかね、そういう話もありますので、やはりそこら辺がいじめとかにつながらないように、そういうところはしっかり言い続けたいといけないのかなあと考えております。新型コロナについては、このくらいでよろしいでしょうか。</p> <p>はい、ありがとうございました。では次の話題の、放課後児童クラブの件をします。</p>
八尋生涯学習課長補佐	(資料に基づき説明)
橋本市長	<p>はい、ありがとうございます。放課後児童クラブが難しいのは、毎年のごとですけど、学校が始まる時は、希望が多いんですけど、2学期を過ぎるとだんだん減ってくるということが、一つ流れとしてあります。ですから、要は、指導員さんをたくさん確保しとけばいいじゃないかということですが、2学期以降減ったときに、もう結構ですと言えるのかっていう話が出てくるのが一つ。</p> <p>あともう一つ、この放課後児童クラブというぐらいですから、ちょうど夕方の忙しいときに、指導員さんに来てほしいんですね。ですから、なかなか来てが集まらない。一定時間数も短いのでまとまった収入になりにくいということで、なかなか人集めも難しいという中でやっているというものです。リタイアした方に来てもらえばいいじゃないかという話もあって、何回かチャレンジはして、これも相性がございまして、「我が孫ならよかけど、人の子どもまで面倒みきらん。」と怒って、一喝されて辞められるとか、そういう話があって、なかなかここは難しいというところがございます。先生のOBさんは、給料が安いので来てくれないんですよ。お願いすればいいじゃないって言うけど、いやそんな安い収入でいけるかと、正直そこでしょうね。今、なかなかそこら辺、その需要と供給の調整が難しいところです。</p>
戸田教育委員	<p>質問をさせていただきます。大変、事業として難しさはあるっていうのはよく分かったんですけども、そういった中で、民設民営民間の参入があるっていうのは、なぜこういった、保育園事業者ばかりやってるんですけども、どういった形で、どういった意図で、どういった背景で参入してきていただいているのかっていうのを教えていただけますでしょうか。</p>
八尋生涯学習課長補佐	<p>最初、小学校1年生の壁ということで、保育園から小学校に上がるときに、親御さんの仕事時間帯が遅くなると、保育園は7時まで預かってもらえるけど、小学校になって預かってもらえないところが問題ということで、放課後児童クラブでもできるように、国のほうで整えていきたいと思いますということがあったと思うんですけど</p>

	<p>も、上の子どもさんが保育園から小学校に上がる時に、下の子どもさんは保育園で預かっているので、小学校の子どもさんも保育園に預けていたほうが、親御さんが一度に送迎ができるからということでご利用が多いと聞いております。</p> <p>今まで育った保育園での施設内ということで、1年生なんかは安心していて、親御さんもどういふところかご存じなので、そういうところで利用されているというふうには聞いております。3年生までの利用が多いかという、長く営業されると、6年生の兄弟さんが中にもいらっしゃるから、兄弟で利用したいという方も徐々に増えてきているとも聞いておりますので、安心感があるっていうことも、一つの理由だとは思いますが。</p>
吉原教育委員	<p>ちょっと質問つながりで、令和3年度4月に、今度放課後クラブのげんきさんというのが新設されるということで、ここの児童数は何人ぐらいキャパがあるのか教えてください。</p>
八尋生涯学習課長補佐	<p>40人の定数ですけども、夏休みとか長期は倍の受け入れができるような広さはとっております。広さ的にはですね。</p>
古澤教育委員	<p>基本的なことをちょっと教えていただきたいんですけど、鳥栖市の場合、なかよし会というのは、学校の敷地内に別棟で建ててあるんでしょうか。それとも、空き教室等があって、そこを活用している学校もあるのか、その内訳を教えてください。</p>
松隈生涯学習課長	<p>鳥栖のなかよし会につきましては、学校内の敷地に建ててるクラブもありますけれども、図工室とか、会議室等の教室を利用させていただいている学校もございます。以上です。</p>
古澤教育委員	<p>もうずっと以前は、学校の施設を利用するとなると、学校長さんとか、最初は割と理解を得にくい状況があったかなというふうに思っているんですけど、それも時代の流れとともに、保護者の方のニーズに応えるべく、子どもが減っている学校なんか、空き教室をという部分が増えてきたかなというふうに思っているのと、目が少しでも行き届くということで、こういう状況なのでいつどこで不審者が入ってこないとも限らないので、まずは安全安心の確保が一番だろうということを取り組みをされてるんだろうと思っていますけれども、分かりました。鳥栖市内も、そういう施設があるというのが分かりました。私のほうでは、ひょっとしたら全部、別の建物でやってあるのかなというふうに思っていたので、割と鳥栖は封建的なので理解がいったいなんじゃないかなというふうに、本音でトークをすれば思っていました。</p> <p>それと、これは私事ですけど、私は教育委員をさせていただいているので、地域貢献のつもりで、旦那も私も、例えば麓小学校に活</p>

	<p>動していただくために、サツマイモの苗を年間五、六百本差し上げたりしています。ほかにも、ここに載っているきずな、お寺は、檀家でお坊さんも昔から知ってるので、そこに関わってある檜崎先生という有名な先生も、もともと近くでしょっちゅう見えたりするので、つい6月の終わり、家のビニールハウスで育ててるミニトマトがたくさんあるから、先生がそんなに子どもたちを見ているなら子どもさんを連れて来てくださいと声かけをしました。その時の喜んでる子どもたちの写真も撮っています。そういった活動も同じで、幾ら卒園したお寺がやっている施設ってということで、そこに入るだけじゃなくて、結構先生は、地域を連れ回して散歩させてあげたりしているんですね。茶飯事それがあんなら、もうぜひお願いしたいと、向こうからオファーがあって、それにこちらも応えて、子どもの笑顔を見ると、やって良かったなど、来年も多分みえるだろうというふうに思っているところです。そういう少しでも支援できるものについては、させていただきたいというアピールではないんですけど、お話でございました。終わりです。</p>
橋本市長	<p>はい。市内各所に古澤さんみたいな方が、いてくれるとありがたいですけどね。そう、本当はだから、そういう全然違う体験をさせていただける場があると、非常にありがたいと思うんですけどね。</p>
天野教育長	<p>今学校の施設を使うっていう話が出たんですけどね。今5つありますよね。今年、田代小学校の図工室を使うということだったんですけど、ほかにはいろいろ会議室を使うとかいうような形で使っていて、5つあるんですよ。僕は、課長していた時代であるとか、校長していた時代とか見ていくと、学校はあんまりよしとしないんですよ。トイレのことであるとか、道具を置いておいてあるとか、いろんな備品もあり、いろいろあるのですね。僕も教職だった頃は、非常に、校長さんたちから反対の意見もありましたが、しかし今はどちらかというと、自分たちの学校の子どもたちだから、それは当然やるべきじゃないっていうことで、トイレの問題など、いろいろあったりしたんですけども、意外と今は、いいでしょうというふうな形になっております。</p> <p>ただ、教室が足らなかつたりする部分があって、そういったときはどうしても厳しいのかなあとということでお願いはしているんですけどもね。だから、いろいろ順番、優先順番があって、ダメな場合は、最終的には今言うように、外に施設を建てるということになります。旭小は、数年前に、立派なものを3教室ぐらい作ってあるんですよ。鳥栖北小であるとかね、様々なところで見通しを持ってやるべきだと思うんです。学校のほうとしては、大いにウエルカ</p>

	<p>ムでやりましょうという気持ちは持っていますので、そういった意味ではいいんですけれども、それでもダメな場合、その見通しをしっかりと持ってやっていただいていると思いますが、なかなか難しいところもあります。だから、ほかの民間が、また今度手を挙げたでしょ。もう少し待って、もっと民間に手を挙げてもらえば、非常に助かるなあと、今度40人ぐらいいきますから随分いいですね、旭と麓地区はね。そういう意味でも、そういった流れが出てくるんじゃないかなというふうな期待をしています。以上です。</p>
橋本市長	<p>はい、ありがとうございます。放課後児童クラブに対して、ご指摘があればどうぞ。</p>
古澤教育委員	<p>説明の中でもございましたけれども、共稼ぎのご夫婦なんかは、子どもさんがまだ小さかったり、1人だけしかいらっしゃらなかったりした場合には、通常は、1学期から行っていけば、夏も当然利用ということでしょうけど、1学期は行ってなくて、夏だけ利用したいという部分が、今までの定例会の中でも、折に触れてご報告が あっていました。もう課題中の課題です。指導員の確保とともに、課題というふうにおっしゃってまして、保護者の立場からすると、やはり何とかお願いしたいと、もう少し密になっても入れてくださいとかいうふうな部分があります。私も久留米市のほうで、もう10何年前に、合併直後は46の学童がありましたので、そういった所管をしております、よく全部の施設でそういうオフアがあるんですね。そういう対応をした覚えがありまして、現場は本当に大変なんだろうなというふうに思いながら、ご説明を聞かせていただいております。可能な限りは受け入れていただくように、施設も、スタッフも、ある人から人手が足りないという話は、教育委員になったときにすぐ耳に入ってきてたんですけど、どうしても手当の関係等、予算もあるかもしれませんけれども、なかなか人材が見つからないというのも、現実的にあるんでしょうけど、そこら辺を可能であれば、幾らかでも上積みをして、手だてされるようにしていただければなど、これは希望です。単なる希望です。</p>
橋本市長	<p>あと担当は、例えばこういうところで、意見をいただきたいとかいうのは、ほかにありますか。もう十分ですか。</p>
松隈生涯学習課長	<p>確かに皆さんおっしゃってましたように、ハローワークとかも含めて募集をかけているんですけれども、やはり勤務時間帯が3時間から4時間、それと一番忙しい夕食どきということで、なかなか来ていただけないというのが実情です。ただ、私どもは、いわゆる公設民営としておりますので、いわゆるリーダーさんとかサブリーダーさんには手当等も支給しておりますし、佐賀県内でも、一番か</p>

	<p>二番目に給与面、待遇面ではいいようにさせていただいております。ただし、やはり鳥栖というのは、福岡県内、久留米等に仕事場がたくさんございますので、なかなか来ていただけないというのが実情でございます。</p> <p>それと、ちょっと話は変わりますが、クラブの専用スペースの規模は、1人当たり1.65㎡ですけれども、今年度初めに、国のほうは規制を緩和していました。ただ、皆さんご存じのとおり、新型コロナウイルスの影響がございましたので、鳥栖市としては、あくまでもこの1.65を死守させていただいて、それよりもまだ離れてお願いするということをしていました。そのため、定員いっぱい、それ以上は入れてないというような状況でございます。</p> <p>今後は、指導員の確保も、もちろんなんですけれども、やはり鳥栖北小とかに至っては、かなり待機が常態化していますので、ここも建設等も含めて学校側と今後協議を進めてまいりたいというふうに考えております。以上です。</p>
天野教育長	<p>大変な面ということで、僕も前に、弥生が丘小にいたときにも、特別支援相当の子どもたちが、結構行っていました。その中で、子ども同士がトラブルなんですよね。色々な喧嘩をしたり、いじめをしたり、もう激しいんですよね。必ずそういうときの保護者さんは、ちょっとこう保護者さん同士も厳しいんですよね。それで、なかよし会のトラブルが、教室でいろいろ影響が出てくるんですね。教室のトラブルが、なかよし会に行っちゃうんですよね。そういったことで、非常に厳しいなあということで感じておりました。</p> <p>僕の同級生が、今学童保育で働いているんですが、「大変ですよ、子ども同士って。」と話すんです。そういう意味では、何て言いますかね、保護者の考え方とか保護者の気質もあるんでしょうけど、そういった面がもろに、なかよし会全体に影響してるんだなど、だから、その辺もしっかりと相談体制をやるとかね、先生方のメンタルをしっかり守ってあげるとかね、そういうことをやっていかないと長く持てないんじゃないかなと、非常にそんな気がして話をしておりました。</p> <p>もう一つ、一体型の放課後子ども教室がありますよね。質的な面からいった場合は、何かその辺のところはね、方向性を持ってないのかなという気もするんですよね。なかなか、まちセンとの関係であるとか指導者の関係とかあるんですけれども、その辺を上手にね、うまくいけば、子どもたちも喜ぶような場面が出てくるんじゃないかなっていうふうな気もしてますけど、どうでしょうか。</p>
橋本市長	<p>どうでしょうかと投げかけられてますが。</p>

白水教育次長

なかよし会の理事長を兼ねておりますので、お話しをさせていただきます。今の一体型のお話ですけれども、一体型の話につきましても、やはりどうしても箱の問題が出てまいります。一つは、帰宅時間がバラバラになります。迎えに来たり、来なかったり、自力で帰ったりというところの、要するに世間での認知度の差がかなり出てくるかと思えます。一昨年、鎌倉のほうに行って、うまくいっているところを見せていただきましたけれども、まず箱から造っています。箱から造って、そこに、人を入れてるといふようなところですね。それは、非常にうまくいってる例ですけれども、ほかではなかなかないようですね。

あとは鹿児島あたりでは、公民館そのものが非常に学校に隣接してあると、要は移動の必要がないということですね。公民館でやっているというような事例はありますけれども、要は学校から統合型のほうに移動するときの手段等も含めて、若干考えなければならないということですね。現在、学校の中にありますので、移動距離はゼロですが、今度移動距離が出てくると、誰が迎えに来るのか、そういったところの話が出てきますので、民間さんにつきましても、送迎付きというようなこともありますけれども、なかなかそのあたりは、さあ右向け右というふうにはならない問題が多いというように考えております。

一つは今、教育長からご指摘ございましたように、子ども同士のいざこざというようなことがあります。これにつきましては、基本的に、学校で特別支援相当のセパレートを受けてる子どもたちも一緒に受け入れていますので、そのあたりのケアが、どうしてもそっちに重きを置いて、他のほうは薄くなるというような状況にあります。そういった子たちのケアをするために、要するに、今おっしゃったように、喧嘩をしたり、逆に叩かれたり、また指導員が叩かれてみたりとか、そういったことも頻繁に起きるということですね。ですので、どうにかしてそういう特別支援相当の子たちを、専門に保育できるように、専門の教育を受けた方に指導していただくのが相応かなというふうには感じております。そのために小学校では、セパレートとしてあるからですね。それなので、幼稚園・保育園の段階では、まだ子どもも小さいので、いざこざがあろうとなかろうと、大したことないだろうと思えますけど、小学校2年生・3年生になってまいりますと、そのあたりも大事になってくる場合が多いですので、そこにケアを注力しているような状況です。結局、そういったことが大変嫌で、長続きしないというふうなところは、よく耳にするところですね。

	<p>それと、若干、理事会の中でお話が出たのは、利用されてるご父兄ですけれども、保育所並みに利用料を上げてよいと、それでも預ける人は預けるんだというようなことを発信なさっている方もおられます。利用料は、保育所とは雲泥の差ですからですね。それなので、そこまでは申しませんが、そういうことも考えたらいかがかかと、利用料を上げることで、指導員の質を上げて、指導員の量も増やすというところに対応なされてはいかかとかという、その利用者さんからの、保育所ですけれども、今のところそういった意見も出てきております。それなので、大きな変換期が、鳥栖の場合は、近々起こるんじゃないかなと考えております。</p> <p>松隈のほうからご説明申し上げましたように、学校の教室を借りておりますけれども、これは空き教室ではありません。図工室とか、そういったものですので、鳥栖の場合は空き教室がないのですね。お互いに、学校もないですし、放課後児童クラブにも、余剰がないというような状況です。今、松隈のほうから申しましたように、それを回避するためには、恐らく建て増しをするか、改築をするか、そういったことでないと、ここ10年ぐらいは対応が難しいかなと考えております。今のところ、鳥栖北小に関しましては敷地内に増設をするということで、教育委員会内で話をさせていただいているところです。</p> <p>そういった感じでしょうかね、僕が感じているのは。やっぱりどうしても特別支援相当の子たちに関しましては、それ相応のスキルを持った職員が当たらないと、現場では厳しいかなと思います。見守りだけではどうにもならない部分が出てきてますので、そこをちょっと考えざるを得ない部分があるかなと思います。以上です。</p>
橋本市長	<p>ありがとうございました。現場で様々な苦労があるということで、例えば、料金を上げていくと人数が絞られていきますので、そこら辺もひとつ手かもしれません。ということで、今いろいろとお伝えしたような課題をはらみつつ運営をしているということでもあります。</p> <p>私そのものは、学校には、できるだけいたくない人間だったんで、すぐに帰って遊び回っておりましたし、我が子も、全然そういうことはなく、自分の好きなことをやってる人たちだったので、なかよし会というのは、この仕事に就いて初めてその存在を知ったぐらいの話で、全然よく分かっていなかったんですけど。だから、恐らく、多分こういう放課後の解消方法というのは、放課後児童クラブだけで解消しようっていうのは、ちょっとどうなのかなというのはずっと思っていて、様々な選択肢が用意されている、ある子は野球に行</p>

く、ある子は生け花教室に行く等々があっても、それはそれでいいんだらうというふうに思っております。その意味でもやはり、古澤さんのような方がそこかしこにいらっしゃると、一挙に課題は解決されるかもしれないという思いもございます。

この課題については、多分これからもずっと続いてまいりますので、その時々状況のご報告をしつつ、またご意見をいただきながら、いい対応ができればというふうに思っております。

3時までとなっておりますので、何かございましたら後10分ございますので、事務局あるいは皆さんから、何かあればいただきたいと思います。また、GIGAスクール構想等、ICTの活用については、これから、日吉先生等々中心に頑張ってくださいになります。ぜひ斬新なアイデアで、脳みそをいかに使わせるかという観点で、活用いただければありがたいと思いますし、また時々にご報告いただければというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

特にないようでございますので、これで終了したいと思います。ありがとうございました。